

令和五年度 京都市公立高等学校入学者選抜
前期選抜学力検査

国語

解答上の注意

- 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 問題は、この冊子の中の1～6ページにあります。
- 答案用紙には、受付番号を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
- 答案用紙の答の欄に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
- 答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある【答の番号】と、答案用紙の【答の番号】とが一致するように注意しなさい。
- 答えを記号で選ぶときは、答案用紙の答の欄の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 字数制限がある場合は、句読点や符号なども一字に数えなさい。
- 答えの書き方について、次の解答例を見て間違いのないようにしなさい。

解答例

一 木曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………答の番号【1】

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 北と反対の方角として最も適当なもの
のを、次の(ア)～(ウ)から一つ選べ。

……………答の番号【2】
(ア) 東 (イ) 西 (ウ) 南

(2) 次の(ア)～(オ)のうち、奇数をすべて選べ。……………答の番号【3】

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3
(エ) 4 (オ) 5

二		一	問題番号
(2)	(1)		番号
【3】	【2】	【1】	答の番号
ア イ ウ エ オ	ア イ ウ	金 曜日	答の欄
【3】	【2】	【1】	採点欄

共通学力検査					
国語					
受付番号					
1	2	3	4	5	6
得点					

— 次の文章を読み、問い(1)～(9)に答えよ。(20点)

原始時代は洞窟壁画に見られるように、絵は自然の暗い岩壁に描かれた。そして農耕時代では神殿の壁、時が下ると教会の壁そして宮殿の壁になった。その後産業社会が興り、住居の概念が変わりつつ移動する壁つまり板や布、紙などによるキャンバスが登場し、幾度の変化を経て今日のそれに至っている。絵画は、自然の洞窟や神殿、教会、宮殿までは空間と絵が一体化し特定な場所性を持つものであった。中世から近世にかけて移動性が重視されると、絵は徐々に場所性を失い、独自の存在様式に向かう。キャンバスのような移動可能な軽い支持体とさまざまなフレームの発明である。場所を引き立てる絵画であった時は、住居の空間構成そのものがフレームの役割を担っていたものだが、移動式の絵となるや、いわゆるフレームの囲いで内側を聖域視する仕組みができた。つまりキャンバスに描かれた絵はフレームに閉じ込められ、外部から遮断された独立空間として成立したというわけである。

そしてようやく現代美術になって、閉じた絵画様式が解体され、支持体が多様化し、□もはずれた。同時に絵は裸となり、それ自体を見る対象(object)になった。絵はキャンバスによるものであろうと他の素材によるものであろうと、ミニマル・アートが示すように、絵を持つ物体として新たな存在性を獲得した。とはいえ、現代美術においてフレームのない絵の意味は決して一律的ではない。古い時代の絵のように、それが場所または観念として、周りの空間と連なりたり溶けあうものである場合は少ない。むしろ作品が閉鎖的自立的でありながら、共存的刺激的な対象(object)として、空間や観客と直に結びつく。絵は元は非対象的な空間だったのが、抽象絵画の觀念空間の時期を経て、見る対象(object)と化したと言ふこと。絵はそれ自体として見るものとなると同時に、空間を占めるものとして仕組まれるや対象(object)性が強まり、平面性は二次的になった。この傾向は明らかに、キャンバスの物体性つまりその存在性を浮き彫りにする性格を強めた。

描かれる対象(object)ということとは、平面のキャンバスを用いたとしても、絵が三次元性の物体であることを意味する。キャンバスが支持体であることを超えて、独自の存在性を獲得する上で、この三次元の物体の性格は重要である。しかしそれは単なる物体ではない。奇妙な生きもののような物体でいわば矛盾的存在なのだ。キャンバスはれっきとした物体でありながら、その白い表面の広がり

【トクソツヘ】

や緊張感のある張り具合などから、こちらの精神や感覚を刺激する不思議な非物質性を帯びる。私はそこに二次元的なフィールドとして捉え直すことのできるキャンバスの両義性、矛盾律を読み取る。こうしてキャンバスは、その物体性と非物質的性格の結合による新たな平面次元として蘇った。だから私にとってキャンバスは、物体であると同時に非物質であり、三次元であると同時に二次元なのだ。私とキャンバスとの関わり次第で、周りの壁や空間と連動する可能性が開かれた。

キャンバスは、その二重性故に周りの空間との連動性と、非物質的なイメージを呼び起こす、特殊なフィールドの性格を持つに至った。この奇妙な存在性こそが、絵画を生きものにさせる。つまり絵画は、物質性と結び付きつつ、想像の羽を広げる、身体を持つ表現になった。こうしてキャンバス絵画は、物体性対象性を持ちつつ、非対象的超越的な広がり現象としてあらわれる。人間が想像の羽を持つ身体的存在であるように、キャンバス絵画もまた想像の羽を持つ身体的存在ということになる。

人は誰しも、有形無形のキャンバスを用意している。それは多分、人間の考えや感じることの展開性や伝達性に由来する。それを意識的に用いる者もいれば、ほとんど無意識のまま用いる者もいる。白いノートもキャンバスであれば、無形の想像の野もまたキャンバスである。キャンバスの在りよう使い方はさまざまであろう。思いつきや沸き立つイメージを、そのまま口でしゃべったり手振りですすこともあるが、脳のキャンバスに映し直したり、白いノートに書き起こしたり、コンピューターに入力することもある。大抵、人は無形の想像の野から出発して、有形のキャンバスにイメージを表わす展開となる。画家の表現の手順がまさにそうであるが、一般の人もまた似た道を歩む。詩人、作曲家の表現はもちろん、一般の人も無形から有形のキャンバスに表現を行う。画家の経験から言うと、刺激的な有形のキャンバスの用意によって、表現が一ソウ鮮明になり、輝きが広がるわけである。

(李禹煥「両義の表現」による)

注

*支持体：絵画を描く土台とする紙・板・布・金属板などの物質。

*ミニマル・アート：あらゆる装飾を取り去った最小限の手段での制作を試みる造形芸術。

*抽象絵画：事物の写実的再現ではなく、点・線・面・色彩による表現を目指した絵画。

*二次的：それほど重要でないさま。

この部分は著作権の関係により掲載していません。

二

次の文章を読み、問い(1)～(7)に答えよ。(18点)

(1)～(8)は、各段落の番号を示したものである。

【へっしつてい】

この部分は著作権の関係により掲載していません。

この部分は著作権の関係により掲載しておりません。

注

* 反覆…本文より前の部分で、ことばが、受け手・発し手の間で表される場ごとに異なった意味となることだと述べられており、本文では「反覆」と区別して使用されている。

* 而して…そうして。

* 点景…風景画や風景写真で、趣を出すために加えられるもの。

* 言語場…本文より前の部分で、受け手・発し手の間で音や文字を用いてことばが表される場だと述べられている。

* 間主観性…自己の認識のみならず、他者の認識も含めた共同的な作用によって成り立つ主観の在り方。

* の謂い…という意味。

* 結節環…ある物と他の物とを結び付ける手がかり。

(1) 本文中の a それは知れる についての説明として最も適当なものを、次の

(ア) (イ) から一つ選べ。 …………… 答の番号【11】

(ア) 幼い子どもがことばを教え、学ぶ姿を見ることで、自分は言語をいつどのように習得したかを自然と理解できるということ。

(イ) 幼い子どもがことばを教え、学ぶ姿を見ることで、自分もまだことばを学ぶ必要があることを自然と理解できるといふこと。

(ウ) 幼い子どもが言語を習得していく姿を見ることで、幼い子どもにはことばを用いる遊びを生み出す力があることを自然と理解できるといふこと。

(エ) 幼い子どもが言語を習得していく姿を見ることで、幼い子どもの言語の習得がどれほど難しいかを自然と理解できるといふこと。

(2) 本文中の b 創っている は、二つの文節に区切ることができる。この文節どうしとの関係として最も適当なものを、次の (ア) (イ) から一つ選べ。 …………… 答の番号【12】

(ア) 修飾・被修飾の関係 (イ) 補助の関係

(ウ) 主・述の関係 (エ) 並立の関係

(3) 本文中の c 教え、学ぶという永き係わり について述べた文として最も適当なものを、次の (ア) (イ) から一つ選べ。 …………… 答の番号【13】

(ア) 言語場において、言語を遂行することによってもたらされるものである。

(イ) 言語場において、いま・ここでの言語の実践に基づいたものである。

(ウ) 言語場において、言語が反復されることによって成り立ったものである。

(4) 本文中の d 生物学的 は漢字一字の接尾語が二字の熟語に付いて構成されている三字熟語である。生物学的 と同じ構成の三字熟語が波線部 (~~~~) に用いられているものを、次の (ア) (イ) (ウ) からすべて選べ。 …………… 答の番号【14】

(ア) 社会の情報化が進んでいる。 (イ) この作品は未完成だ。

(ウ) 季節感が伝わる表現だ。 (エ) 衣食住は生活の基本だ。

(5) 本文中の e 膨 という漢字を、「膨れる」と表記して訓で読むとする。このときの「膨れる」の漢字の部分の読みを平仮名で書け。 …………… 答の番号【15】

(6) 本文における段落どうしとの関係を説明した文として最も適当なものを、次の (ア) (イ) から一つ選べ。 …………… 答の番号【16】

(ア) [2] 段落では、[1] 段落で述べた内容を具体例を使って示した後、[1] 段落の内容を要約してわかりやすく説明している。

(イ) [4] 段落では、[3] 段落で述べた内容を比喻を用いて言い換えた後、異なる立場から主張を提示している。

(ウ) [6] 段落では、[5] 段落で述べた主張を簡潔に言い直したうえで、[5] 段落の問題提起に対する答えを導き出している。

(エ) [8] 段落では、[7] 段落までの主張を踏まえつつ、[7] 段落で繰り返し述べた内容をもとに話題を広げている。

【裏へつづく】

(7) 冬馬さんのクラスでは、本文を学習した後、各班でテーマを決めてからグループディスカッションをすることになった。次の会話文は、冬馬さんの班で話し合ったもの一部である。これを読み、後の問い①～③に答えよ。

冬馬	「あらゆることばは社会的な存在である」とは、どういうことだったかな。
友香	本文から A ものだということだとわかるよ。
冬馬	なるほど。社会的な存在であることばは、意味の振幅が必然的だと述べられていたね。
麻由	そうだね。意味の振幅が起こる理由は、言語場において人々がたとえ同じ形のことばを使っても、言語の意味が B において実現するからだと本文から読み取れるね。人がそのように異なるから意味の振幅は必然的で、言語が共生性を持つんだね。
友香	うん。だからこそ、私たちは他者のことばを学びたくなるんだね。
拓弥	そうだね。本文をよく理解できたし、グループディスカッションのテーマは「ことばを学ぶことについて」にしようよ。

① 会話文中の **A** に入る最も適当な表現を、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。…………… 答の番号 **【17】**

- (ア) 意味を交換するために交わされるさまざまなことばは、その中に〈教える〉〈学ぶ〉といった契機を持っており、そのことばを用いることは人と人が互いに異なることを感じ取らせる
- (イ) 異なる人たちがそれぞれに用いることばは、その基礎に人と人が互いの存在を知覚する契機を持っており、互いのことばの形が異なることを認識することでことばの意味が異なることを教え〓学ぶことができる
- (ウ) 人と人が言語場において意味を伝え合うことばは、本源的な共生性を持っており、相手のことばと自分のことばが同じ意味で実現することが〈教える〉〈学ぶ〉きっかけとなる
- (エ) 人が発し得るさまざまなことばは、世界のうちに存在する言語場において人ごとに異なる意味で実現され、言語場のことばが発されること自体に教え〓学ぶきっかけを含む

② 会話文中の **B** に入る適当な表現を、本文の内容を踏まえて、二十字以上、三十字以内で書け。…………… 答の番号 **【18】**

下書き用

20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

③ グループディスカッション をするときの一般的な注意点として適当でないものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。…………… 答の番号 **【19】**

- (ア) 話し合いの目的を理解したうえで発言するとよい。
- (イ) 疑問点があっても質問せずに他者の意見に同意するとよい。
- (ウ) 自分の意見との共通点を探しながら他者の意見を聞くとよい。
- (エ) 他者の発言を聞いて自分の考えを深めていくとよい。

